

(法第28条第1項)

平成29年度 特定非営利活動に係る事業報告書 (第10期)

千葉県松戸市新松戸四丁目257番地の1ニューホームマンション1階
特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド
理事長 三浦 輝江

1 事業の成果

①ユース事業

- ・ユーススペースは放課後の中高生の居場所として開催。ゲーム、バンド、勉強、心の相談など自由に参加。中高生にとって大切な居場所となっています。
- ・2014年から行われている「あなたは高価で尊い存在」がテーマの自己肯定感を高める出張授業を、今年度は県立松戸向陽高等学校、県立行徳高等学校、県立馬橋高等学校の計3校で行いました。アンケートによると、3校とも授業が始まる前は「自分のことが嫌い」という生徒がほとんどだったが、授業の終わりには「自分のことを大切だと思える」という生徒が増えました。
- ・ユーススペースで育った高大生数名が、松戸市中高生支援事業ゲットユアドリームでファシリテーターとして活躍、学習支援事業でのボランティアスタッフとして活躍しました。
- ・松戸市中高生支援事業として委託されているゲットユアドリームは、松戸市立根木内中学校(参加者103名)、松戸市立古ヶ崎中学校(参加者132名)で開催されました。2回のゲットユアドリームで、計14名(10/26(木)9名・1/27(土)11名、重複あり)の講師の方々にお話しいただき、様々な価値観や職業観に触れ、将来について考える場を提供できました。根木内中学校の生徒からは講師の方々に感謝のお手紙が寄せられました。学校との連携により先生方、保護者の方々にも好評でした。

②リトミック事業

リトミックを通して、保護者と子どもの居場所作りを目指し、継続してお父さん向けのバウンダリーの紹介を通し、夫婦で子育てを勧める機会にもなりました。

③子育てセミナー事業

市内各おやこDE広場に置かれたチラシ以外に、松戸市の子育て情報やセミナー参加者からの口コミでの参加者が増えました。ランチ提供もママ達がリラックスできる場所となり、子育て中の方々の大切な居場所として喜ばれました。

④Jキッズ

- ・里山体験キャンプに中高生ボランティアが大勢参加しました。小学生の見守りスタッ

フとしても活躍の場面が多く、香取市の小学生や地域の方々との交流も深まり忘れられない良い経験となりました。

- ・クリスマスのグループホーム訪問では、新しい施設「かがやき」に招待されました。歌やクイズ、手作り作品を利用者さんとJキッズメンバーで力を合わせて作り、スタッフ、利用者さんにもとても喜ばれ、素敵なクリスマスの思い出となりました。

⑤普及啓発事業

Jワールドのホームページに学習支援事業枠を追加しました。内容が分かりやすいように、トップページ写真も追加しました。Jタイムズを3回発行し活動報告をしました。

⑥おやこDE広場旭町

- ・異年齢交流の場として、2017年度はLet's体験にも出向き、中高生のボランティアを募集し、5名の積極的な高校生の参加がありました。
- ・旭町中学の夏休みボランティアは合計10回24名の生徒が参加され継続、ふれあい体験授業は3クラス100名の生徒が参加されました。
- ・馬橋高校美術部が広場の装飾を制作してくださりくださいました。美術部は発表の機会が少ないので生徒さんにとっても良い機会となり、新たな連携が始まりました。
- ・高齢者との交流では、今年度もシルバー人材センター、はつらつクラブの方に、イベントのお手伝いをしていただき、またシニア交流センターのゴーヤ収穫体験などを通して、交流が持たれました。今年度はシルバー人材センター女性部会の方から、利用者のお子さん達にクリスマスプレゼントをいただき、とても喜ばれました。このような交流を松戸市はつらつクラブ連合会主催、長生郡・松戸市合同研修会でお話しさせていただきました。
- ・今年度初めてママパパ学級三日目を開催しました。その時に参加した妊婦さんが出産後、赤ちゃんを連れてこられ、広場につながっています。

⑦学習支援事業

- ・昨年に引き続き、中学生を対象にした学習支援を月・木コースと火・金コースの2コースを開設、小学生のコースは今までの月2回土曜日コースから、週2回月・金コースと利用日数を増やしました。
- ・今年は3年生が真面目に取り組み、熱意も意欲もある生徒が多く、いい影響を与え合い、リラックスした中にも集中して学習する雰囲気ことができました。また、ボランティア等の活動にも積極的でした。実際の受験では、前期で倍率が高い高校を受験して落ち、後期にチャレンジする生徒が昨年よりも多く、定期的に利用していた全員が無事合格しました。
- ・11月23日模擬試験実施。
- ・初の試みとして勉強合宿を行い、そのなかでキャリアワークショップを行いました。

- ・居場所づくりとしては、12月クリスマス、3月卒業パーティ実施。
- ・毎年、中3生が「自分がお世話になったから、後輩たちにも何かしたい。」と中学卒業後、ボランティアしたいと申し出てくれて、支援を受けるだけでなく貢献しようというよい文化が生まれました。
- ・SNS、インターネット、ゲーム、コミュニケーションスキルや就職について等々、様々な分野に関して自立に役立つ情報を休憩時間に提供しました。
- ・発達障害をもつ生徒とその家族の支援に関しては、スタッフが何度も話し合い、勉強会をし、さらに市、学校、関係する団体とのケース会議をもちました。
- ・年間延べ中学生 2126 名（前年 1301 名）、1 回平均の参加者数が 10.9 人（前年 6.57 人。）小学生は年間延べ 324 名、1 回平均の参加者数が 3.5 人。中学生の参加が伸びたのは、欠席者への電話連絡などのフォローをしたことで、定着率が上がったことが大きな要因だと思われます。内訳は 3 年生が 53.4%、2 年生 18.9%、1 年生 27.5%。

⑧子育て支援コーディネイト

- ・のんびりできる広場として、保健師がコーディネーターを紹介するために一緒に来られる利用者も増えており、今年度は保健師と連携し、幼稚園入園間近のお子さんを持つご家族と関わり、最初は全く広場になじめず、一言も話すことが出来なかったお子さんが一緒に体操できるまでになり、母親とも信頼関係を築き、不安な事を相談できるまでになりました。
- ・ママパパ学級三日目を広場で開催することになり、すでに開催している広場の見学、小金保健福祉センターにママパパ学級二日目の見学を兼ねて広場での開催をアピールに行くなど、出ていく機会も増えた。
- ・コーディネーター会議が始まり、地区ごとの集まりを持つなど、他の法人のコーディネーターとつながる機会が増え、情報共有がしやすくなった。